

クラゲを観に行く

H17 共業 勝呂 光子

いつかは行きたい所が、少しだけ有る。すぐに行けば良いのに、何故、いつかは…と言うのかというと、とても遠い上に、ピンポイントで、その場所だけに行きたいから、なかなか行けないというわけだ。

そのひとつが「加茂水族館」で、山形県の鶴岡市に有る。

「加茂水族館」は 2012 年に、「世界一のクラゲ展示数」でギネス世界記録に認定され、クラゲの展示数は、最大では 50 種類以上という事だ。水族館好き、クラゲ好きには、絶対に行きたい所なのだ。

或る日、友達が、その近くに用事が有って、私が加茂水族館に行きたいと言っていたのを思い出して誘ってくれたので、突然、行ける事になった。

加茂水族館では、職員の方とお話する事が出来た。私の疑問は、何故、日本中や世界中で、他の水族館がクラゲで 1 位になれなくて、又は、なろうとしなくて、何故、この加茂水族館が 1 位になれたのか、という事だった。職員の方の答えは、「一言で言うと、クラゲの飼育は、とても面倒だから。」という事だった。



カギノテクラゲ
(海藻にくっついている)
大きさ:(触手含め)3~4cm 毒の強さ:強

まず、クラゲの寿命は短く、4 ヶ月~最長でも 1 年以内だそう。飼育には、毎日、新鮮な海水と交換しなければいけない、海水の温度や PH も繊細、水流がなければいけない、光も無ければいけないなど、必要な事が山ほど有るらしい。そして、クラゲは、必ず、ひとつの水槽に 1 種類だけしか入れてはいけないのだそう。

加茂水族館が、そんな面倒な事が出来たのは、

「(閉館の危機から)やるしかなかったので、必死で頑張った。」からだそう。毎日、新しい海水と交換するのは、加茂水族館の目の前が海(庄内浜)なので出来ることだった。庄内浜は、クラゲの宝庫

で種類も多く、毎日、クラゲの採集を続けているが、海にいるクラゲは、四季により種類が変わる。そこで、日本各地に採集協力者(水族館・大学・漁師さん・一般の方々)を増やしていった。そして、併設の「鶴岡市クラゲ研究所」(クラゲ繁殖研究所)で、常時 100 個以上の水槽でクラゲの栽培をしている。初めは、長期飼育(寿命延長でなく何代もの継代)



キタユウレイクラゲ 大きさ:傘径約 30cm
触手約 60cm 毒の強さ:強

は困難だったが、少しずつ出来るようになってきているそう。それまでも、海外からクラゲ提供など協力を得ていたが、ギネスに認定されてからは、こちらからお願いしなくても、珍しいクラゲをあちこちから送って来てくれるようになったそう。

それまでも、海外からクラゲ提供など協力を得ていたが、ギネスに認定されてからは、こちらからお願いしなくても、珍しいクラゲをあちこちから送って来てくれるようになったそう。



インドネシアシーネットル
大きさ:傘径約 20cm 触手約 100cm 毒の強さ:最強レベル



カブトクラゲ 大きさ:3~10cm
毒の強さ:無毒

私のもう一つの疑問は、クラゲの死体は、どうなるのか？いつ、水槽から掬いあげる(入れ替える)のか？という事だった。職員の方の答えは、「ミズクラゲの場合は、形が崩れて来たら(寿命なので)、クラゲを食べるクラゲにあげている。」という事だった。給餌解説コーナーでは、実際に、ユウレイクラゲがミズクラゲを食べる所を見る事が出来る。思考でなく反射で、すぐ食べるが(吸い込まれる感じ)、消化には何時間もかかるとの事だった。

クラゲの姿、動き方は、とても美しくて優雅だ。一度にこんなに沢山のクラゲを観る事が出来て、本当に満足。誘ってくれた友達に心から感謝。



ブルージェリーフィッシュ
大きさ:傘径約 4cm 毒の強さ:弱

今回、加茂水族館に行ける事になった時から、すごくクラゲの絵を描きたかったので、出来る限り多く写真を撮り、家に戻ってから、早速、描いてみた。(cf. 私は「スケッチの会」の会員です)

クラゲの優美さ、不思議さを、少しでもお伝えできたら嬉しいのだけれど、・・・。

<参考>

鶴岡市立加茂水族館、職員の方のお話

鶴岡市立加茂水族館企画編集(2012、2014)『クラゲに取り憑かれた水族館 15年間の取り組み』 鶴岡市立加茂水族館

村上龍男・下村脩(2014)『クラゲ 世にも美しい浮遊生活－発光や若返りの不思議－』 PHP 研究所